

完了後の評価個表

整理番号	9
------	---

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	東京都
地域（地区）名	た ま 多 摩	事業実施主体	森林組合・農林水産振興財団・森林所有者等
関係市町村	はちおうじ 八王子市ほか5市町村	管理主体	森林組合・農林水産振興財団・森林所有者等
事業実施期間	H23年度～H27年度（5年間）	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>本地区は東京都西部の多摩地域に位置し、15市町村が計画を樹立している地区である。そのうち森林整備事業を実施している市町村は6市町村であり、対象森林面積は51,671haとなっている。</p> <p>本地区では、森林の6割が人工林であり区齢級以上の森林が全体の9割を占める一方、若い森林が極端に少ない状況にあり、二酸化炭素吸収機能の低下だけでなくスギ花粉飛散量の増加も問題となっている。</p> <p>このような中、平成18年度からスギ花粉発生源対策としてスギ林を伐採して花粉の少ないスギ等へ植え替える事業が実施され、森林の更新が図られている。引き続き、伐採更新を促進するとともに、植栽後の保育作業を確実に実施し、健全な森林を育成していくことが重要である。</p> <p>多くの森林が利用期にある中、森林の管理と木材利用を推進していくために、森林作業道整備や搬出間伐の推進が求められている。</p> <p>このため、本地区内の森林が有する水源涵養機能や山地保全機能などの公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐などの森林整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 1,542ha 人工造林、下刈り、間伐、森林作業道等</p> <p>・総事業費 1,285,565千円（税抜き 1,217,265千円） （平成22年度時点 439,175千円（税抜き 418,262千円））</p> <p>※なお、事業採択時は事前評価の対象外である。</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>令和3年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>事業着手以降、労務単価の上昇や優先度の高い箇所から実行したことに伴う事業量の変動等を踏まえ費用便益分析を実施した。</p> <p>総便益（B） 28,702,336千円</p> <p>総費用（C） 5,121,923千円</p> <p>分析結果（B/C） 5.60</p>
-------------------------	--

② 事業効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・更新、保育によって1,542haの森林が整備され、水源涵養、山地保全等森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、森林循環促進事業により、木材が安定的に供給された。 ・森林整備の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。
③ 事業により整備された施設の管理状況	整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理しており、良好な管理状況にある。
④ 事業実施による環境の変化	森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養、山地保全、木材等林産物の安定供給等、様々な公益的機能が発揮されている。
⑤ 社会経済情勢の変化	本地区の人口は、年々減少傾向にあり、林業従事者は60歳以上の就業者の割合が高い。また、伐採業者が減少傾向にあるため、伐採事業の担い手の確保や育成が急務となっている。
⑥ 今後の課題等	<p>森林の有する公益的機能の維持増進を高度に発揮させるため、コンテナ苗生産の導入や、ドローン運搬による省力化、低コスト事業への取組等新たな手法を取り入れて効率的に森林施業を行うことが必要である。</p> <p>一方で鳥獣害の被害が拡大しており、被害防止対策なしでは成林が厳しい地域も見受けられるため、鳥獣害防止対策と設置した施設の見回りを強化する必要がある。</p> <p>地元の意見：</p> <p>(東京都)</p> <p>森林整備事業の実施によって森林循環が促進されたとともに、水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮に寄与している。</p> <p>(あきる野市)</p> <p>森林整備事業の実施により、利用期を迎えた森林資源が効率的に搬出され、適切な造林・保育やシカ柵等の効果で森林の循環や健全化が広がり、森林の公益的機能の発揮の促進につながっている。一方で、林業従事者の高齢化や人口減少等の課題に対応するため、ICT技術を活用した施業の省力化や低コスト事業をより一層促進することが必要である。</p> <p>(東京都森林組合)</p> <p>皆伐実施後の再造林により、林齢の若返りは少しずつ図られているが、シカ被害等もあり、森林の多様性を重要視し、搬出間伐による高齢級林分「針広混交(複層)林化」の育成も必要だと考える。</p> <p>そのためには、森林作業道の開設と併せ、林道整備の拡充が必要不可欠である。</p>

<p>評価結果</p>	<p>必要性： 間伐等の森林整備等を通じて、水源涵養機能や山地保全機能等が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では、傾斜が厳しい東京の森林において創意工夫して作業道を作設して搬出間伐を行う等コスト縮減に努め、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的な機能が向上し、引き続きその効果が継続されていることから、事業の有効性が認められる。</p>
-------------	--

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：東京都

地域(地区)名：多摩^{たま}

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	7,615,048	
	流域貯水便益	1,885,106	
	水質浄化便益	7,638,274	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,532,655	
環境保全便益	炭素固定便益	3,605,518	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	2,425,735	
総 便 益 (B)		28,702,336	
総 費 用 (C)		5,121,923	
費用便益比	$B \div C = \frac{28,702,336}{5,121,923} = 5.60$		

